

# たのえづわ



第207号



## 御挨拶

宮司 吉田源彦

本年は、新帝陛下には踐祚あそばされ、令和というあらたな時代を迎えることになりました。十月二十二日には即位礼、十一月十四・十五日には大嘗祭という御大礼の諸儀が行われます。当神宮におきましても即位礼・大嘗祭の当日には、大御心を体して当日祭を斎行し、大御代の弥栄を謹んで御祈念申し上げるところです。私たち国民の一人ひとりが、天皇陛下の御即位を厳粛に受け止め、一連の諸儀が皇室の伝統に基づき、国家の重儀として執り行われるよう、相互に啓発を行いながら努めてゆかなくてはなりません。

これら御大礼の諸儀のなかでも大嘗祭が古式に則り執り行われます。御即位後、初めての新嘗祭を「大嘗祭」と称して国民の奉賛のもとに行われるものです。神々に新穀を奉じて祈りを捧げられる天皇さまのお姿に、祖孫一体となつたわが国の永遠の姿を拝する次第です。

また、皇室・国家の佳節とともに、本年は明治二年九月一日、明治天皇の勅旨により東京の神祇官で北海道鎮座神祭が斎行され、御祭神の開拓三神がお祀りされてより百五十年を迎えることとなります。このお祭りが当神宮の創祀にあたることから、毎年九月一日にはこれまで御鎮齋記念祭を御奉仕してまいりました。本年は百五十年の佳節にあたることから、北海道神宮御鎮齋百五十年式年祭として斎行させて頂きました。近代開拓の歴史は百五十年と短いわけですが、厳しい自然と向き合いながら、この大地を今日の豊かな北海道にされた先人に対しあらためて

感謝の念を捧げるところです。

この北海道鎮座神祭が北海道神宮の信仰の原点となります。明治天皇が北海道の開拓にあたって思召され、開拓三神を北海道鎮護の神と定められ、その神格をお与えになられたお祭りですが、人知を超えた神慮のなかに北海道の未来を見つめられた、明治天皇の英慮を忘れてはならないと思います。明治天皇が北海道に賜れた大御心、また、天皇陛下が御即位を通して神々に捧げられた祈りを、私どもは祭りを通し、また社頭活動により次の世代に伝えてまいりたいと存じております。

最後になりましたが、皆様方にはますます御健勝にお暮しを頂き、あたらしき令和の時代に幸多きことをお祈り申し上げます。

## 天皇陛下の御即位を奉祝して

天皇陛下の御即位に際し、一連の儀式が行われます。これらの儀式を御大礼と総称します。平和で豊かな我が国を願われて行われる儀式です。皆様とともに天皇陛下の御即位をお祝いをしましょう。

十月二十二日

### 即位礼

皇位につかれた天皇陛下が高御座に登られ、国民、諸外国に対しその即位を宣明（宣言）して明らかにすることし、国民や諸外国の代表が祝いをする儀式です。

### 大饗

大嘗祭に参列した国民の代表が、天皇陛下とともに御即位を祝う大嘗祭の直会が行われます。

### 親調

天皇陛下は、伊勢の神宮や神武天皇、近縁の天皇の御陵に参拝され、御即位を無事に終えられたことを御奉告されます。

十一月十四日・十五日

### 大嘗祭

天皇陛下は、毎年新穀を神々にお供えする新嘗祭を行います。即位後の新嘗祭を特に大嘗祭と称して、古式に則り建造された大嘗宮でお祭りが行われます。国家・国民の安寧と五穀豊穰が祈念され、全国から特産の農水産物もお供えされます。

# 北海道神宮御鎮齋百五十年記念・奉祝事業（概要）

明治新政府は、極東地域におけるロシアの南下政策を脅威とし、蝦夷地開拓を重要な政策として位置付けた。明治二年七月八日には、蝦夷地開拓を職掌とする行政組織として開拓使が設置された。同八月十五日には太政官布告によって、蝦夷地を北海道と改称し十一ヶ国八十六郡を置くことが定められた。こうして北海道開拓事業が開始されるのであるが、その出発点は「北海道鎮座神祭」であった。

明治二年九月一日、開拓使が北海道へ出発するに先立ち、明治天皇の勅旨により東京・神祇官で「北海道鎮座神祭」が斎行され、開拓三神（大国魂神・大那牟遲神・少彦名

神）が北海道開拓の守護神として鎮齋された。御霊代である神鏡が開拓使に授けられ、明治四年にこれを奉齋して創建されたのが札幌神社、現在の北海道神宮である。

北海道鎮座神祭は、明治天皇が北海道総鎮守（北方鎮護）の神として開拓三神をお定めになられた御祭りであり、北海道開拓事業、札幌の都市形成の起点となったものである。北海道神宮の創祀でもあることから、毎年九月一日にはこれを奉祝して御鎮齋記念祭が行われてきたが、令和元年は百五十年にあたり北海道神宮御鎮齋百五十年式年祭として九月一日午前十時より斎行した。本年は、天皇陛下の

御即位の佳節にあたることから記念事業については、御大典（御大礼）の奉祝と一連のものとして企画したところである。

記念事業の内容については、明治天皇百年及び明治天皇御増祀五十年の各種事業を踏まえ、本殿及び施設整備事業・奉祝事業・調査研究事業を柱として記念事業を策定した。

## 一、本殿調度等の新調

(1) 本殿調度の新調  
御祭神の創祀を偲び、殿内装飾の設えを新たにします。

(2) 釣り灯籠の新調  
御神慮を慰め、御神徳の宣揚を図

るため、社殿・回廊の釣り灯籠の掛け替えを行う。(全面にわたるため今後二年間を要する。)

### (3) 御鳳輦の修繕

「札幌まつり」神輿渡御二四〇回を迎え、御鳳輦の金具類及び大綱を新調・修繕する。

## 一、施設及び参道の整備

### (1) 鳥居の建立

北一条口(北一条駐車場口)に奉納鳥居を建立する。天皇陛下の御即位を奉祝して「令和の鳥居」と命名する。

### (2) 参道の整備

鳥居の建立に合わせ、北一条駐車場より参道に至る参拝口の整備を行う。

### (3) 参拝者休憩所の新築

円山公園口よりの参道沿いに、参拝者用の休憩所を新築する。

### (4) 神門大注連縄の新調

御大礼を奉祝して神門の大注連縄の掛け替えを行う。

### (5) 手水舎の修繕

手水舎の給水設備を新調し、地下水により水を供給できるようにする。

### (6) 駐車場の整備

北一条駐車場に自動料金所を設置し、合わせて駐車場内の整備を行う。

## 三、奉祝行事の開催

### (1) 記念講演会の開催

三笠宮彬子女王殿下を講師に、御大典・御鎮齋百五十年奉祝記念講演会を開催する。

### (2) 流鏝馬神事の奉納

流鏝馬競技連盟による流鏝馬奉納行事を開催する。

### (3) パネル展等の開催

## 四、北海道神宮の歴史的調査及び研究

### (1) 北海道神宮の歴史的研究

北海道神宮の創祀より明治天皇の御増祀までを通史的に取り纏め、神社創建の意義を明らかにする。

### (2) 札幌まつりの歴史的研究

札幌まつりの歴史的な変遷を取り纏め、札幌の都市形成、文化の醸成に果たした役割(社会的機能)を明らかにする。

### (3) 北海道神宮造営史の研究

北海道神宮の造営史の概要を取り纏め、開拓使以来の欧米技術と日本の伝統技術が、北海道の自然環境のなかで如何様に融合し、神社建築に影響しているのかを明らかにする。

## 五、書籍の刊行

(1) 「北海道神宮と札幌まつりの歴史」の刊行

(2) 教化冊子「札幌まつり」の刊行

## 六、協賛事業

(1) 北海道博物館「北海道神宮展(仮称)」への協賛

(2) 「海道東征」北海道公演への協賛

(3) 「北海道神宮御鎮齋二五〇年」記念切手作成への協賛

# 北海道神宮 御鎮齋 百五十年式年祭

北海道神宮の創祀とされる「北海道鎮座神祭」より百五十年を迎える令和元年九月一日に、御鎮齋百五十年式年祭を斎行しました。

当日は献幣使として田中恆清神社本庁総長をお迎えし、午前十時、本殿へと参進し祭典が始まり、海川山野の幸を盛った神饌二十台を大前にお供えし、吉田官司が祝詞を奏上



祝詞奏上



黎北の祈り

しました。続いて神社本庁幣が奉られ、献幣使田中恆清神社本庁総長により祭詞が奏上されました。巫女により、明治天皇百年式年大祭にあわせ作舞された「黎北の祈り」が奉納された後、官司以下祭員、献幣使、参列者各位が玉串を奉り拝礼し、百五十年を迎えられた事への感謝と、北海道の益々の発展と国家の隆昌を祈りました。

祭典終了後は札幌グランドホテルにて盛大裡に直会が行われました。直会では、まず清興として松前神楽連合保存会による松前神楽が披露され、松野哲也責任役員による開会の辞、吉田源彦官司の挨拶の



乾杯



松前神楽



日舞

後、田中恆清神社本庁総長、鈴木直道北海道知事、秋元克広札幌市長、マンリオカデロサンマリノ共和国大使よりお祝いの言葉を頂きました。祝電披露の後、外山勝志明治神宮名誉官司の発声により会が始まりました。会の中ではさつぽろ名妓連による日舞が披露され、和やかな中会は進み、芦原高穂北海道神社庁長の発声により万歳三唱を行い、中山菊雄責任役員による閉会の辞をもって北海道神宮御鎮齋百五十年式年祭直会は閉会となりました。

## 社頭整備事業

北海道神宮御鎮齋百五十年の記念として社頭整備事業を行いました。北一条駐車場より参道に至る経路が狭く参拝に不便を生じていたことから、拡張工事を行い、参道口の表示として鳥居を建立しました。鳥居は岩田地崎建設株式会社様、旭イノバックス株式会社様より御奉納いただき、大御代を言祝ぎ「令和の鳥居」と命名しました。その他、参拝者休憩所「神宮茶屋」の新築、手水舎の給水整備の新調、北一条駐車場に自動料

金所の設置等を行い、参拝者の皆様により快適にご参拝いただけるよう社頭の整備を行いました。



参拝者休憩所「神宮茶屋」

では五年ぶりの開催となりました。会場では一矢ごとに歓声があがり、観客は疾走する馬の迫力に圧倒されていました。

記念講演会は、七月十三日(土)午後二時より札幌グランドホテルにて、彬子女王殿下を講師にお招きして、「北海道から広がる日本文化」と題して約八百名の参加者のもと開催されました。彬子女王殿下には、前日に北海道神宮を御参拝になられ、講演会に臨まれました。彬子女王殿下には心游舎の総裁をお務めになられ、日頃より日本の伝統を守り、子供たちに伝え



流鏝馬

## 奉祝事業

御鎮齋百五十年の奉祝行事として流鏝馬奉納と記念講演会を開催しました。

流鏝馬は、流鏝馬競技連盟による奉納で、馬は在来種を使用し、女性、外国人も旗手として参加し、五穀豊穰、天下太平を祈願して、七月六日(土)午後一時より境内特設馬場(梅林付近)で開催されました。神宮



記念講演会

るための御活動をなされ、当神宮でも日本文化体験のワークショップを開催いただいております。

彬子女王殿下には毎年札幌で開催される宮様スキー大会にも御臨席になられ、スキー文化の振興に御尽力になられており、此度の講演でもスキーの発祥、北海道とスキースポーツとの関係に触れられ、文化としてのスキーの広がり、北海道をより発展させることになるとお話になりました。

## 釣り灯籠掛け替え

昭和六十一年に氏子崇敬者の方々よりご協賛をいただき廻廊にさげられていた釣り灯籠は経年劣化が目立ち、また嘗ては御鎮齋記念祭に併せ献灯祭（現在では開拓神社の御霊祭に併合）が行われていたこともあり、この御鎮齋百五十年に併せ新たにご協賛を募り、随時掛け替えを行います。灯籠の製作に時間がかかるため、二年間をかけて事業を進める予定です。



釣り灯籠

## パネル展開催

円山公園地区の複合商業施設マルヤマクラス様より、北海道神宮が御鎮齋百五十年を迎えるにあたりパネル展を開催したいとお



パネル展

催したいとお

話を頂き、八月二十日（火）～九月一日（日）の十三日間、マルヤマクラス一階にて北海道神宮の歩みと開拓の群像のパネル展を開催されました。

## 記念切手

北海道の写真家富井純朗氏の撮影した北海道神宮・札幌まつりの写真を使用したオリジナルフレーム切手が発行されました。切手は千五百部発行され、八月三十日（金）より札幌市内の郵便局や新千歳空港など約二百三十カ所にて販売されました。北海道神宮におきましても、九月一日（日）には北海道神宮御鎮齋百五十年式年祭の後贈呈式が行われ、神門下にて臨時郵便局が開設され切手の販売が行われました。



記念切手

## 記念品



御朱印帳



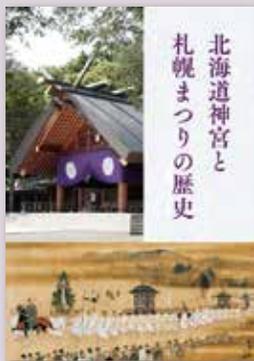
記念酒



菓子

北海道神宮と  
札幌まつりの歴史 発刊

明治二年九月一日、「北海道鎮座神祭」が東京の神祇官で斎行されました。この祭りは北海道神宮の創祀にあたり、北海道開拓と札幌の都市形成のひとつの起点となります。この「北海道鎮座神祭」より百五十年という大きな佳節を迎えるにあたり、北海道神宮、札幌まつりの歴史を、写真資料を多く使うことで一般の方々にも読みやすくまとめて刊行致しました。



# 社頭風景

六月  
九月

## 例祭齋行

今年の例祭は本年番第七東祭典区、山車年番第四豊水祭典区の奉仕により齋行されました。

六月十四日(金)午後三時の頓宮修祓祭にはじまり、午後五時には万灯のお囃子の先導により第二鳥居から年番役員が参進し、午後六時から宵宮祭を齋行し、十五日(土)午前十時からは二〇〇名以上の参列のもとに例祭が齋行されました。

北海道神宮例祭は「札幌まつり」とも通称され一般に親しまれてきました。十四、十五の両日は神門内並びに土俵舞台などで様々な催しが奉納され、十六日(日)は勇壮な調べを奏でる勤王隊を先頭に、時代装束に身を包んだ総勢一三〇〇名の奉仕員

により、九基の山車を伴っての神輿渡御となりました。また、本年は御大礼の年であることから、御大礼奉祝の提灯行列が渡御に加わり街を練り歩きました。

渡御行列は約十二キロに渡つて練り歩き、沿道には多くの方が集まり、鳳輦に手を合わされていました。



浦安の舞



かっぱれ



梯子乗り



鳳輦



御大礼奉祝提灯行列

## 夏越の大祓

六月三

十日(日)

午後三時

より夏越の

大祓を齋

行しまし

た。当日は

天候にも恵

まれ約二〇



茅の輪くぐり

〇〇人の方々の参列のもと、神門下の祓所にて祓主による大祓詞の宣読、修祓の後、茅の輪くぐりの神事を行いました。引き続き神門内で家内安全祈願祭が斎行され、参列者には御守が授与されました。

罪や穢れを祓い除き、心身を清めるために毎年六月三十日と大晦日に大祓神事を行います。半年の罪穢れを祓い、身心ともに活力を得て、また半年を過ぎすという古来より続く大切な神事です。どなたでも参列することができ



家内安全祭

ますので、お誘い合わせの上お参り下さい。

## 北海道神宮献茶式

六月二十二

日(土)午前

十時半より表

千家三木町宣

行宗匠のお手

前により献茶

式が行われま

した。

九月四日

(水)午前十

時より裏千家

坐忘斎千宗室

家元のお手前

により献茶

式が行われま

した。



三木町宣行宗匠



坐忘斎千宗室家元

## 伏見桃山陵遙拝

七月三十日

(火)午前九時

より神門下祓

所にて、明治天

皇の御陵であ

る伏見桃山陵

遙拝を斎行し

ました。



遙 拝

## 穂多木神社例祭

六月十五日(土)午後一時半より、北海

道拓殖銀行に永年勤務功労のあった物故

役員を祀る穂多木神社の例祭が斎行さ

れました。



祝詞奏上

## 鉱霊神社例祭

六月二十五日(火)十時半より、鉱山殉

職者を慰霊する神社である鉱霊神社の例

祭が斎行されました。



神楽奉奏

第四十九回

夏季

## ラジオ体操会

北海道神宮では、七月二十六日(金)より八月十九日(月)まで、園児・小学生・中学生を対象とした、第四十九回夏季ラジオ体操会を実施しました。期間中は毎日行われ、一日平均約百八十名の子供達が参加しました。ラジオ体操終了後境内に於いて有志による紙芝居が行われ子供達は熱心に聞き入っていました。



ラジオ体操する子供達

## 第八回七夕まつり

今年も八月一日(木)から八月七日(水)まで神門前と西回廊に七夕飾りを設置しました。



神門前の七夕祭り

七夕行事は日本古来の祓の行事と大陸伝来の星祭りとが習合し、年中行事として今日まで地域的な特色も豊かに行われてきたものです。

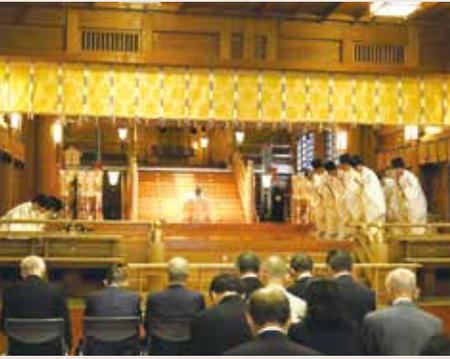
多くの参拝者がそれぞれの願いを書いて短冊を結び、笹がその短冊の色どりで覆われるほどでした。

## 樺太開拓記念祭

八月二十三日(金)午前十時より、元樺太在住者とその親族等で結成されている全国樺太連盟北海道支部をはじめ、全国から集まった会員の皆様の参列のもと、樺太開拓記念祭を斎行しました。

この日は日露戦争後に締結されたポーツマス条約により、樺太の南半分が日本領となり、その鎮護のために明治四十四年に創建された樺太神社の例祭日にあたり、また樺太の施政記念日でもあります。

樺太神社は樺太豊原市に鎮座し、社格は官幣大社、樺太の総鎮守として崇敬されてきましたが、終戦により廃社となりました。そのため御祭神を同じくする北海道神宮が、関係者の心の拠り所となるべくこの記念祭を奉仕しております。



祝詞奏上

## 採火式・分火式を 挙行政



分火式

七月七日(日)、北海道神宮境内において二〇二〇年第七回スペシャルオリンピック日本冬季ナショナルゲーム・北海道」の大会火の採火式並びに分火式が行われました。この大会は、知的障害のある方がスポーツを通じ、その能力や尊厳を示し、多くの人々と才能や技能、友情を分かち合い、生活の質を豊かにすることを目的にオリンピックやパラリンピック同様、四年に一度夏季と冬季に開催されています。

当日は有森裕子理事長をはじめ関係の方々の本殿にて参拝を行い、採火式を行いました。続いて境内弓場の特設会場にて分火式が行われた後、安藤美姫様や稲葉篤紀様をはじめとするランナーの方々によりトーチランが行われました。

## 四十九回 写生大会開催

昭和四十五年から始まり今年で四十九回を迎えた北海道神宮写生大会が九月七日(土)開催されました。晴れ渡る夏の空の下、参加した約二〇〇名の児童たちは、実行委員の先生方に指導を受けながら子供らしい伸び伸びとした絵を描き上げていました。

先生方の厳正なる審査のもと神社本庁統理賞他各賞が決められ、十月十四日には表彰式が行われます。

全ての作品は十月一日(火)から十一月四日(月)迄、本殿横の回廊にて展示されます。



写生大会

# 開拓神社

## 例祭

北海道神宮末社開拓神社は、昭和十三年に開道七十年を記念して北海道庁石黒英彦長官が、物故開拓功労者の顕彰を行うため、札幌神社（現北海道神宮）境内に開拓斎齋殿を建て顕彰祭を斎行したことはじまりです。

八月十四日（水）午後三時、開拓神社にお納めいただいた皆様の願いが書かれた木札をお焚き上げする、「開拓神社祈願札焼納祭」が執り行われました。積み上げられた木札は祓い清められ、神前にて祝詞を奏上した後、齋主が忌火から松明に火を移し、四方より火をつけ焼納致しました。

同日午後六時、宵宮祭が斎行され、合せて御神輿に御霊が遷されました。



子供神輿

引き続き少年野球チーム、ボーイスカウト、盆踊り同好会の子供たち約二〇〇名による子供神輿の渡御が行われました。渡御行列は福井ばやし、北響太鼓の勇壮な響きと共に、子供たちは元気な掛け声をあげて円山地区を渡御しました。

## 第三十二回開拓神社杯少年野球大会

令和元年五月十一日（土）より総勢十九チームにより、トーナメント方式で熱戦が繰り広げられ、八月五日（月）には、札幌市東区の札幌つどいむに於いて決勝戦が行われました。選手達の少年野球らしい正々堂々としたプレーと、互いの健闘を称えあうその姿に、大会関係者や父母の方々より惜しみない拍手が選手達に送られました。



決勝戦

表彰式は八月十五日（木）午前七時四十五分より北海道神宮本殿で行われ、優勝の篠路ライオンズ、準優勝のニユースターズ、第三位の緑丘ホームーズ、カップーズの各チームが表彰されました。また、優秀選手達には各個人賞と各チーム一名ずつに努力賞が授与されました。

## 第四十一回北海道神宮神饌田拔穂祭

八月二十七日（火）午後一時より、上川郡東川町にある北海道神宮神饌田において第四十一回目の抜穂祭が斎行されました。吉田宮司が齋主となり、田長を北海道農業協同組合中央会副会長小野寺俊幸氏、田長介助役を北海道農業協同組合中央会協同活動推進室室長高橋直樹氏、耕作長を東川町農業協同組合長樽井功氏がそれぞれ務めました。

耕作者である三田常男氏を始め、東川町の関係者、札幌からの奉仕団含め一〇〇名以上が参列し、大神様の恩頼への感謝の誠心を捧げ、北海道の農業の更なる発展を祈りました。神饌田で奉耕し収穫された「ゆめびりか」は、北海道

神宮の御神前に捧げられます。今年も豊かな稔りを神々から賜り、瑞穂の国の祭事を終了することができました。



刈られた稲穂

盆踊り



八月十三日(火)～八月十五日(木)頓宮境内にて盆踊りが行われ、東地区を明るくする会による屋台が出て多くの方が参加し楽しみました。

夏越の大祓



六月三十日(日)夏越の大祓が斎行され、約350名が参列しました。茅の輪くぐり神事の後、社務所三階に祭場を設けて家内安全祭が行われました

奉納品並びに奉納者ご紹介

平成三十年九月より令和元年八月までの間、篤志の真心をご奉賛頂きました。誠に有難うございました。(順不同)

一般奉納者(平成三十年九月～令和元年八月)

黒田賢様 三十万円

ジユターラット・カジョンクリン様 三十万円

青木 猛様 三十万円

川原 徳夫・邦子様 二十五万円

御鎮齋百五十年記念事業奉納者(九月九日現在)

岩田地崎建設(株)様 北条駐車場側鳥居

旭イノベックス(株)様 北条駐車場側鳥居

長沼 昭夫様 二十万円

(株)有我工業所様 井戸設備工事式

北海道神宮奉賛会様 三百万円

東原 俊郎様 二百万円

吉田 和弘様 百十万円

阿部 勲・陽子様 百万円

(株)マルゲンビル様 五十万円

佐藤 源五郎様 五十万円

谷口 修一様 五十万円

鈴木 徹章工芸(株)様 五十万円

小笠原 昭三様 向拝門幕

岡田 武様 向拝門幕

伊東 正美様 十五万円

熊谷 卓司・美恵様 十万円

一般社団法人さっぽろ下町づくり社 代表理事  
柴田 寿治様 フォールディングベチ子脚

株式会社ササキ 代表取締役 佐々木 誠様 テント張

NPO法人 日本園芸療法士協会 理事長 瀬山 和子様 十万円

奥泉 正博様 神楽面

医療法人恒仁会様 十万円

瀧澤 博様 十万円

出村 良治様 十万円

小林 一英様 十万円

(有)蛭天分店様 十万円

北海道神宮一日講社様 釣り灯籠基

北海道神宮奉賛むすび会様 釣り灯籠基

北海道神宮奉賛むすび会有志一同様 釣り灯籠基

北海道神宮敬神婦人会様 釣り灯籠基

北海道神宮さざれ石会様 釣り灯籠基

札幌興風会様 釣り灯籠基

北海道神宮青衣講社様 釣り灯籠基

倭祇講社様 釣り灯籠基

北海道神宮祈請講社様 釣り灯籠基

北海道神宮吟詠講社様 釣り灯籠基

札幌山車保存会様 釣り灯籠基

# 奉賛会だより

## 新入会員・協賛者のご紹介

当会へのご入会、ご協賛を頂きまして、まことに有り難うございます。令和元年五月十六日から令和元年八月末日までのご入会の方、またご協賛頂きました方のご芳名をご報告致します。お名前漏れ等がございましたら、お手数ですが事務局までご連絡下さい。(敬称略)

### 新入会員のご紹介

奥山 茂樹  
鶴巻 宏暁  
川口 麻夕  
安宅 狩人  
岩間 久美子  
土岐 敏央  
豊田 敏志  
齋藤 みはる

## 協賛者のご紹介

### ◇二万円

谷口 和男  
ヤハラ  
消防設備(株)

### ◇一万円

齊藤 美年子  
(株)北藤  
電設工業

(株)美好屋

代表取締役 竹林 照格  
吉尾 弘  
吉尾医院 院長 加藤 紀恵子

### ◇五千円

富山 義賢  
中山 ミシン 商事(株) 中山 菊雄  
中野 美代子  
吉山 八郎  
夏奈 鍼灸 接骨院 井手 夏奈  
沖田 善輝  
渡辺 臣明

### ◇三万円他

西川 隆也  
滝本 道子  
経成興業(株)  
河井 博  
塩田 義昭  
松岡 達子  
樋口 俊一  
藤原 克通  
片平 幸代  
小川 武雄

## 「境内清掃奉仕」のご案内

昭和六十三年から始まり、本年度で三十二回目を迎えました恒例の北海道神宮奉賛会の境内清掃奉仕を行います。お誘い合わせのうえ本年も多数のご参加を心よりお待ち申し上げます。

【日 時】十月二十七日(日)

【集合時間】午前九時四十五分

【集合場所】北海道神宮 参集殿

【日 程】午前十時より正午まで

【申込〆切】十月十九日(土)

【受 付】毎日午前九時から午後四時まで

【連絡 先】奉賛会事務局

電 話 六一一〇二六一

FAX 六一一〇二六四

※寒さが予想されますので防寒着でお越しください。

※雨天の場合は中止となります。

※植樹作業はありません。

※住所、電話番号、会員名を明記し事務局宛に FAX ください。よろしくお願いいたします。



境内の清掃風景

特集

がんばれ！  
北海道

開拓の群像特集

合田 一道



歴史から見えるもの ④8

五稜郭を設計、築城 武田斐三郎

武田斐三郎は函館市の五稜郭を築城した人物として知られています。五稜郭内に斐三郎の顕彰碑が立っていますが、碑面にはめ込まれた顔のレリーフに光沢があるのは、来城者らがなでるせいといわれています。



武田斐三郎

斐三郎は文政十年（一八二七）、伊予国（愛媛県）大洲藩士の次男に生まれました。早くから大坂の緒方洪庵、江戸の佐久間象山ら著名な学者について蘭学を学びます。

嘉永六年（一八五三）、ロシア使節のプチャーチンが樺太の国境問題で再び長崎を訪れた際、幕府は筒井政憲らを応援役に派遣しました。この時、斐三郎は蘭学者の箕作阮甫の通訳として同行し、蘭書『万国地理新誌』を翻訳して『北町略記』を著し、応援役の人たちの便宜を図りました。

安政二年（一八五五）、幕府は蝦夷地を直轄地とし箱館奉行を配置し、斐三郎を異例の措置で幕府直参に取り立て、諸術調所の教授方

に任命しました。

二十九歳の斐三郎がこの時に提出した建白書には次のような教育方針が示されています。

一、役人やその子弟はもとより、水夫、足軽の子弟まで文武の道を教える。陸海軍のことや、航海、測量まで勉強させる学校だから、寄宿舎を希望する者には食事を用意する。

二、江戸の学問所は幕府と藩の区別が厳しく、寄宿生には身分の制限があるが、箱館では身分や貴賤に関係なく、成績で序列を決める。

三、学生は原書生と訳書生にわけ、原書生は文法、航海書、算数を教える。試験は毎月六回。

封建的身分制の厳しかった時代に、こうした革新的な学校が蝦夷地に設けられたことは、極めて珍しいといえます。

ですから各藩から向学心のある者が競って集まりました。後に郵便制度を創設する前島密、鉄道事業を興す井上勝、海運の先達の蛸子末次郎らです。

箱館奉行は斐三郎に対して、弁天岬台場と箱館奉行所の建設を命じました。斐三郎が設計図を作成し、安政二年（一八五六）、砲台の建設に着手、続いて翌年、奉行所の建設に着手しました。フランスの築城書をもとに作成したこの設計図は、星型の平城です。郭内からの射撃に死角がないのが特徴です。

工事はどちらも大がかりで、砲台は文久三年（一八六三）、五稜郭は元治元年（一八六四）に完成しました。ざっと七、八年もかかっています。

この工事の最中、斐三郎は調所の学生たちを新造船「箱館丸」に乗せて、航海術や測量術を実地研修させながら、国内交易に出かけました。

蝦夷地で採掘した鉛、硫黄などを積み込み、佐渡、長崎、大洲、堺、兵庫、浦賀、桑ヶ崎を回って宮古で年を越し、釜石で溶鉱炉を見学して、箱館へ戻るといって日本一周の研修旅行でした。この航海で斐三郎は『辺海測量日記』二巻を著しました。

文久元年（一八六一）には亀田丸でロシアのニコライエフスカへ赴き、黒竜江地方を実測しました。

幕府に招かれて、アメリカから箱館にやってきた地質鉱山学士のブレイクとバンペリーの二人の地質調査に同行し、指導を受けています。

しかし、斐三郎は五稜郭が完成して三カ月後に、箱館を去ったのです。まだ三十八歳の働き盛りでした。

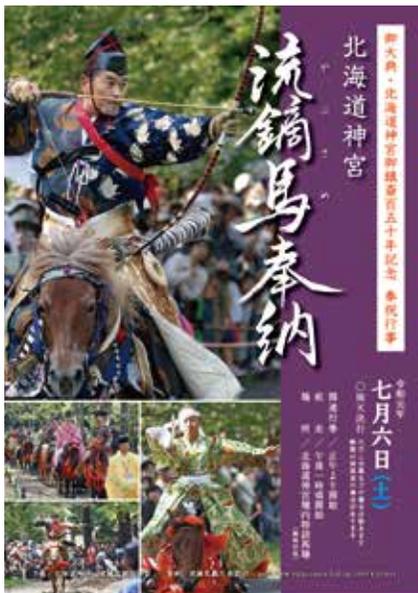
明治維新後、開拓使からの再三の招きを受けましたが、最後まで断り続けました。なぜでしょうか。箱館戦争で旧幕府軍の拠点となった五稜郭を、おのれの目で見るのがしのびなかつたのか、とも思えるのです。



武田斐三郎顕彰碑

◆プロフィール◆

昭和九年（一九三四）、空知郡上砂川町生まれ。北海道新聞に入社し、道内各地を回る。在職中からノンフィクション作品を発表。『定山坊行方不明の謎』で北海道ノンフィクション大賞を受賞。退職後は札幌大学文化学部講師。著書は『日本史の現場検証』人間登場！北の歴史を彩る『大君の刀』など。



北の志づめ 第207号

令和元年10月1日発行

〒064-8505  
 札幌市中央区宮ヶ丘474  
 電話 011-611-0261  
 FAX 011-611-0264

北海道神宮社務所